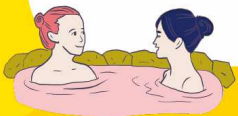




山鹿市まちなかグランドデザイン (原案)



将来像（ビジョン）はじめ本計画は現時点の原案であり
令和8年度の具体の取組み内容の検討を通じて適宜見直しを行います



| | | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|----|
| 序章 | はじめに | 02 |
| | 山鹿市まちなかランドデザインとは？策定の目的 | |
| 第1章 | 計画の概要 | 03 |
| | 計画期間、計画対象エリア、計画の位置づけ、計画の策定プロセス、市民・観光客のニーズ調査 | |
| 第2章 | 山鹿市まちなかの現況と課題 | 07 |
| | 山鹿市まちなかの現況、市民・観光客が感じるまちなかの魅力・課題 | |
| 第3章 | 山鹿市の将来像（ビジョン） | 12 |
| | 市民・観光客が描く将来像（ビジョン）、まちなか活性化に向けたポイント 将来ビジョン・コンセプト、20年後の将来イメージ、エリアごとの特性・イメージ | |
| 第4章 | まちづくりの進め方 | 25 |
| | 市民のチャレンジを応援するまちづくり、計画の実現に向けたロードマップ（仮） | |

山鹿市まちなかグランドデザインとは？

- ・山鹿市のまちなかの20年後の将来像（ビジョン）を示します。
- ・また、地域住民や事業者、山鹿市の各関係者が将来像（ビジョン）を共有し、山鹿市の魅力的なまちづくりを実現する指針となる計画です。
- ・このため、行政と民間（ここでは、地域住民、事業者、まちなかにかかわる様々な関係者と位置づけ）それぞれが手を取り合って、知恵やアイデアを出し合いながら作ります。
- ・山鹿市まちなかグランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）の作成は、2025年（令和7年）度に基本的な考え方（原案）を示し、2026年（令和8年）度に基づいた方策を示します。



山鹿市まちなかグランドデザイン策定の目的は？

山鹿市のまちなかが持つ歴史や文化、宿場町として栄えた特徴を活かして、将来にわたり魅力的で、持続可能なまちなかであるための方向性を示すこと。



計画策定の背景

様々な転換期を迎え、持続可能なまちなかを実現するための計画が求められています。

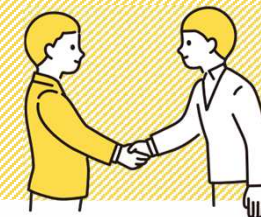
急激な人口減少・高齢化が進む中で地域を取り巻く環境は大きく変化しており、まちの活力の低下、空き家・空き店舗等の増加など、まちなかが抱える様々な課題を解決することが必要です。また、八千代座やさくら湯をはじめ歴史・文化を活かした観光のあり方、ライフスタイルの多様化によるまちなかニーズの変化など、大きな転換期を迎える中で、市民や観光客にとって魅力的で住み続けられる、観光等の賑わいや活力が発展するまちなかを実現するための計画を作っていくことが求められています。



計画の役割と意義

行政と民間が手を取り合って、共に歩み続けていくための計画を作っていきます。

計画づくりにあたっては行政と民間のそれぞれの得意分野を活かし、具体的な取り組みとして実行します。また、まちなかに一過性の賑わいをつくるのではなく、地域住民の日常の暮らしが豊かになり、観光地としての魅力を向上・持続させるための事業やチャレンジを応援し、まちなかの魅力が将来にわたって続いていくことを目指します。



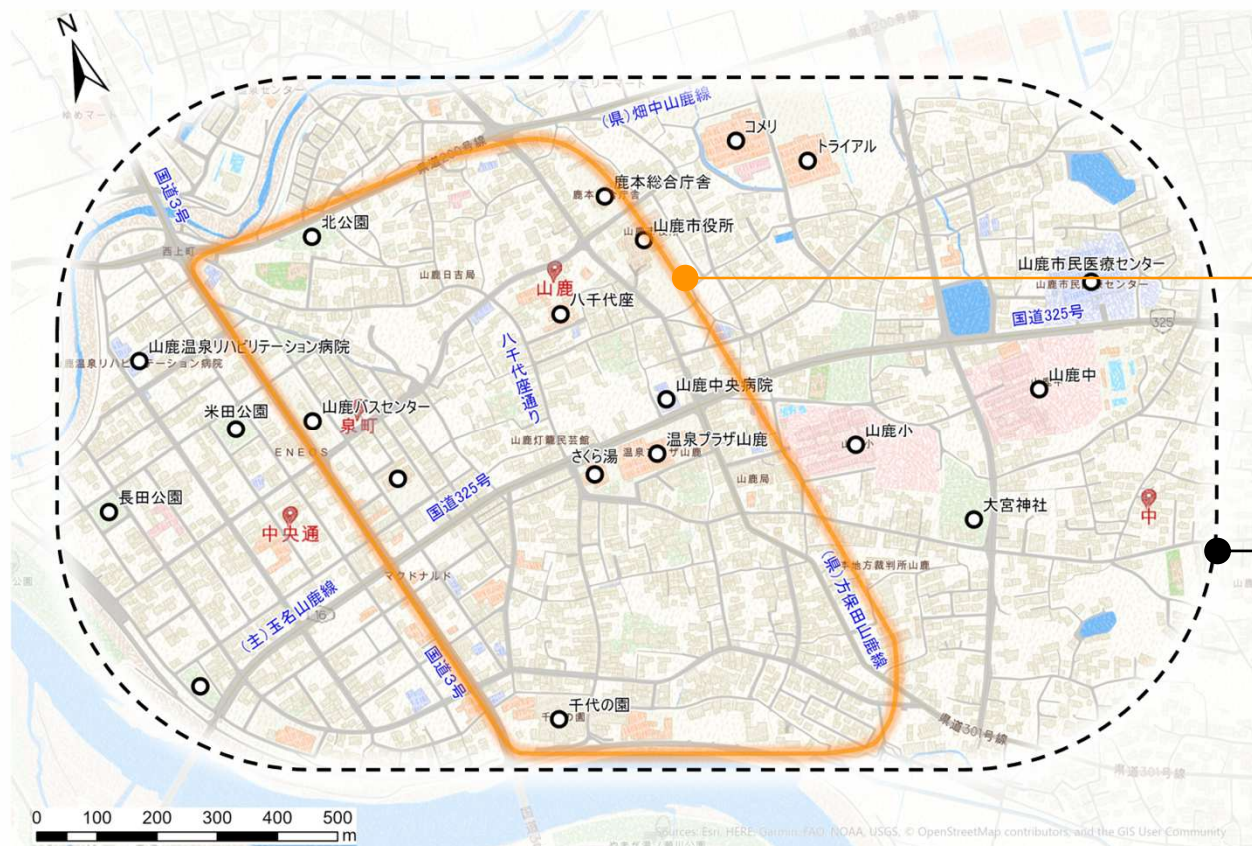
計画期間

ランドデザインの計画期間は2027年（令和9年）度～2046年（令和28年）度までの20年間とし、必要に応じて見直しを図りながら計画を更新していきます。

計画対象エリア



豊前街道を軸として、観光や飲食、生活・行政サービスをはじめ、様々な機能が集まっている中心市街地を対象エリアとしています。



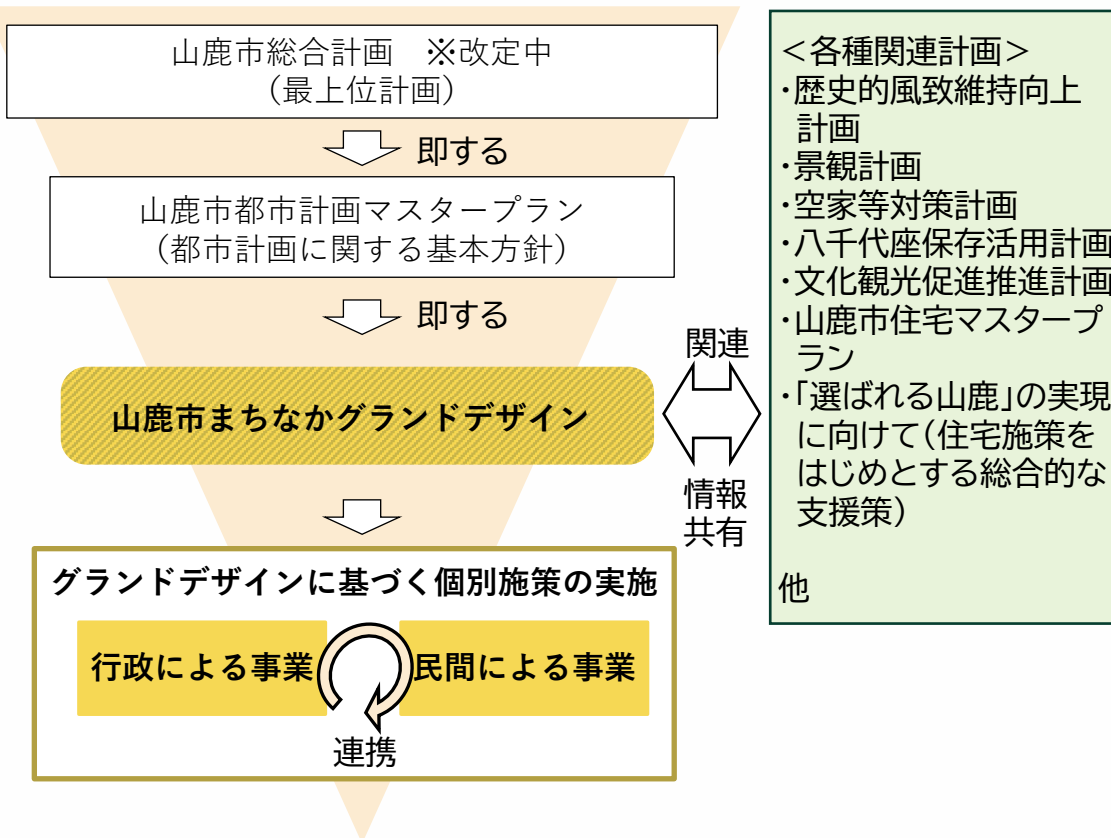
課題を解決する方策等を実施する主な対象エリア

ランドデザインを検討する対象エリア

計画の位置づけ

山鹿市まちなかグランドデザインは、本市の「総合計画」「都市計画マスタープラン」等を上位計画とするとともに、他の関連計画との連携も図ります。

「山鹿市まちなかグランドデザイン」に基づき、個別の施策の検討を進めます。



<山鹿市及びまちなかにおける歴史・まちづくりの経緯>

古代～中世

- ・菊池川水運による流通の集散地として「経済・流通の中心」のまちの性格を中世以降形成
- ・約800年前に温泉が発見され温泉町としてまちを形成

近世～明治期

- ・豊前街道が参勤交代のルートとして整備、宿場町として栄え、従来の経済・流通の中心的役割が強化されるとともに観光中心地の位置づけ

明治中期以降～昭和50年頃

- ・「地方行政の中心」の位置づけが強まり、経済・流通の機能発展とともに、開かれたまちとして文化・芸能を呼び込み、明治43年には八千代座が建設され文化中心地のまちを形成
- ・鹿本鉄道開通などの交通機関の発展に支えられ豊前街道を軸とした中心市街地の発展（市街地再開発事業、国道の建設）

昭和50代後半～

- ・自動車の普及、郊外型店舗の立地等により中心市街地の商業、文化施設の魅力の低下により空き店舗、人口減少が進む

平成初期

- ・昭和後期から八千代座復興の動き、灯籠館の開館、歴みち事業や景観条例に基づく歴史的な町並みの改修や八千代座の大改修へ展開

平成中期～

- ・平成17年市町村合併。また中心市街地活性化基本計画（平成20～25年度）により、歴史資源の活用、暮らしやすい環境、交通環境の充実に向けた取組みを実施（さくら湯の再生、八千代座交流施設、プラザファイブの再生、バスセンター整備ほか）

令和～グランドデザイン策定へ！💡

- ・「歴史まちづくり計画（第2期）」が国認定。歴史的風致維持向上を目的に、八千代座や菊池川流域の文化資産を活用した回遊促進
- ・山鹿市文化観光推進地域計画の策定など、八千代座、山鹿灯籠民芸館、さくら湯等を文化観光拠点施設として観光客の増加と地域活性化に向けた取組みを推進

WEBアンケート・インタビュー調査



WEBアンケート調査 多くの市民・観光客から意見収集

- ・ 期間／2025年11月15日（土）～2026年1月31日（土）
- ・ 対象者／山鹿市民、山鹿への通勤・通学者、まちなかへの観光客
- ・ 調査方法／googleフォームを活用したWEBアンケート調査
- ・ 周知方法／まちなかの主要施設や観光施設、飲食店等にポスター、チラシ、POP、カードを設置。その他、高校への配布や市の広報誌やホームページで周知
- ・ 対象エリア／グランドデザインの計画対象エリア
- ・ 調査内容／市民・観光客に分けて調査項目を設置（市民）まちなかの関わり、まちなかの魅力・課題、改善点など（観光客）観光動向、まちなかの観光評価、観光の改善点など



デプスインタビュー調査

アンケート回答者から魅力課題、ニーズ深掘り

- ・ 期間／2026年1月
- ・ 対象者／インタビュー協力意向のあるアンケート回答者（市民、観光客）
- ・ 調査方法／オンライン会議ツールzoomを活用した個別WEBインタビュー調査

ワークショップ



令和7年度 多くの市民・観光客から意見収集

- ・ 目的／山鹿のまちなかにおける20年後の将来像の共有
- ・ 期間／（市民）2025年12月17日（水）19-21時
2025年12月20日（土）14-16時
（高校生）2025年12月20日（土）10-12時
- ・ 対象／山鹿市民（一般公募）
- ・ 内容／①「20年後の私の山鹿スケッチ」の発表
②20年後の将来像の実現に向けて必要なこと
③20年後の山鹿まちなかのビジョン

※その他、市若手職員まち歩きワークショップ実施



各種計画における当該地区の方向性

凡例 ・ /方向性(ビジョン・将来像)の柱
 ➡/当該エリアの方針

<市全体を対象とした計画>

<第3次山鹿市総合計画(策定中)>
 (以下【総計】という)

ずっと住みたい健康都市やまが
 ・地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、賑わいを創出するまち
 ・快適な「暮らし」を続けられるまち

<山鹿市都市計画マスタープラン>
 (以下【MP】という)

人と自然・産業・歴史文化をつなぐ都市やまが～多様な暮らしと交流のまちづくり～

- ①地域や人々の役割分担と連携強化によるオール山鹿のまちづくり
- ②安全・安心・快適で、多様な暮らしを実現するまちづくり
- ③地域資源を生かし、魅力や活力を高め、多様な交流を実現するまちづくり

<「選ばれる山鹿」の実現に向けて>
 (以下【住宅施策】)

山鹿市に住みたいと思われるような移住・定住に資する良質な住環境の整備
 ➡中心市街地のまちなか居住の推進
 ➡歴史的な町並みの保全・整備

<まちなかエリア周辺を対象とした計画>

<山鹿市文化観光推進地域計画>
 (以下【文化観光】という)

湯町音夜(ゆまちおとよ)～町衆が紡いだ山鹿に浸かる～

- ①本物を体感できる体験型事業の展開
- ②地域住民と事業者による観光振興がもたらす山鹿文化の継承と地域活性化
- ③各拠点施設の磨き上げと二次交通の充実による回遊性の向上

当該地区のプロジェクトおよび取組み方針

凡例 青字/実行中(済)・継続中のプロジェクト
 黒字/取組み方針(想定する事業)
 橙色/各種法規制による規制・誘導

<エリア全体を対象としたプロジェクト>

<交通関係>

- 来訪者向け交通サービスとして「シェアサイクル」「グリーンスローモビリティ」等の導入検討【公共交通】
- 八千代座、さくら湯他と文化資源をつなぐ「電動マイクロモビリティ」「観光タクシー」の検討【文化観光】

<その他ソフト事業>

- ナイトタイムエコノミー事業【文化観光】
- イベント開催に合わせた広場でのマーケット出店や店舗の回遊
- そぞろマップの作成(まち歩きコース)【文化観光】
- 空き家等を活用したアートスポットの整備【文化観光】

● 道路の無電柱化

- 町並み景観の向上や安全性の確保



● 道路修景(カラー舗装等)

- 歴史的な町並みと調和した景観舗装の整備
- 景観舗装の連続性による回遊性確保



● まちなみ整備事業

- 歴史的建造物を重点的に保全する区域
- 「豊前街道山鹿地区」の建築物に対し、歴史的な町並み景観の向上に資する外観(屋根、外壁等)改修に対して、工事費の一部を助成



● 豊前街道歴史的まちなみ再生事業

- 空き店舗を活用した新規出店を促進する区域
- 「豊前街道山鹿地区(景観形成重点地区)」の歴史的・文化的な町並みの保全と地域の活性化を目的として、建築物(空き店舗)の改修等に対して事業費の一部を助成



「住宅用地整備促進事業」及び「住宅用地創出促進事業」の対象区域

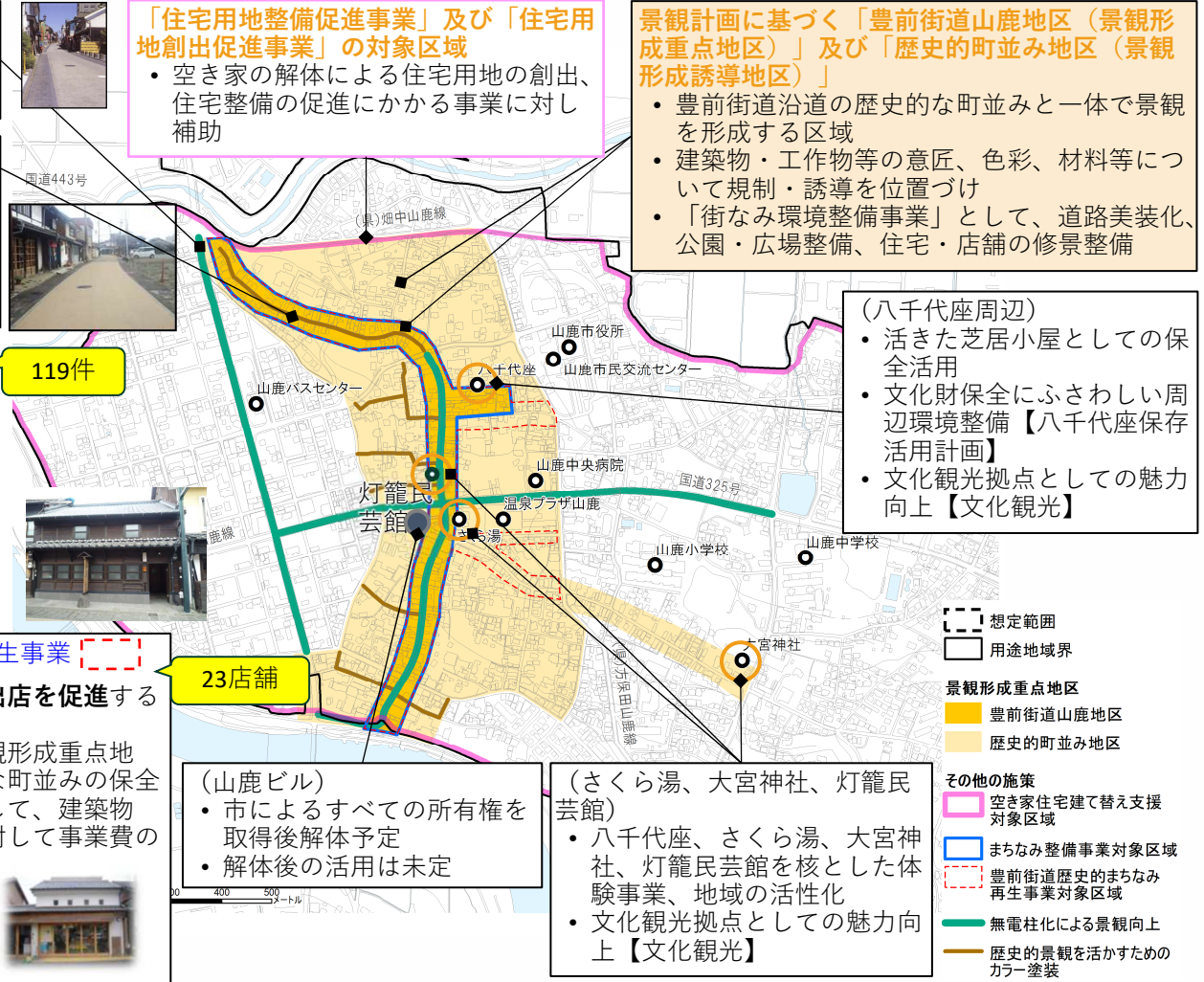
- 空き家の解体による住宅用地の創出、住宅整備の促進にかかる事業に対し補助

景観計画に基づく「豊前街道山鹿地区(景観形成重点地区)」及び「歴史的町並み地区(景観形成誘導地区)」

- 豊前街道沿道の歴史的な町並みと一体で景観を形成する区域
- 建築物・工作物等の意匠、色彩、材料等について規制・誘導を位置づけ
- 「街なみ環境整備事業」として、道路美装化、公園・広場整備、住宅・店舗の修景整備

(八千代座周辺)

- 活かした芝居小屋としての保全活用
- 文化財保全にふさわしい周辺環境整備【八千代座保存活用計画】
- 文化観光拠点としての魅力向上【文化観光】



119件

23店舗

(山鹿ビル)
 ・市によるすべての所有権を取得後解体予定
 ・解体後の活用は未定

(さくら湯、大宮神社、灯籠民芸館)
 ・八千代座、さくら湯、大宮神社、灯籠民芸館を核とした体験事業、地域の活性化
 ・文化観光拠点としての魅力向上【文化観光】

人口

- ・まちなかエリア全体で人口減少が予測され、人口密度が大きく減少（2020年から2040年にかけて人口は約35%減少、人口密度は31人/haから22.5人/ha）
- ・エリア全体で高齢化が進行（2040年43%）、若年人口も大きく減少

土地・建物

- ・住宅用地は増加傾向
- ・商業用地は微増傾向にあるが、用途地域外の大規模開発が進んでいることから、まちなかの商業用地が減少
- ・昔ながらの市街地での建物の老朽化や空き家・空き地の増加

都市機能

- ・徒歩圏内に、商業、医療、金融、子育て支援、高齢者福祉施設などが分布する生活利便性が高いエリア
- ・古くから行政機能の中心地として、生活サービスに加え行政サービス機能が集積

公共交通

- ・路線バスは、山鹿バスセンターを拠点に熊本市・玉名市・菊池市方面を結ぶ路線が運行
- ・路線バスが運行していない地域は、あいのりタクシーが運行

都市基盤

- ・都市施設は、都市計画道路、都市計画公園が位置づけられ整備が進む（都市公園は西側エリアに多く分布）
- ・国道を骨格として、放射状に幹線道路網が形成
- ・国道3号及び国道325号は慢性的に渋滞が発生

観光

- ・山鹿市全体で、歴史・文化・自然・温泉資源をはじめとした観光資源が分布
- ・山鹿市全体の観光客数は、コロナ禍前に比べて減少（2019年比で入込客数－25.2%、延べ宿泊者数－10.8%）
- ・本エリアには、国の重要文化財の八千代座をはじめ、さくら湯、大宮神社、山鹿灯籠民芸館のほか、豊前街道を軸に各種観光関連施設が集積

商業

- ・人口減少、高齢化が進み事業継承が課題（市全体の事業所数も2012年から2021年にかけて5%減少）
- ・豊前街道の空き店舗数は35件
- ・市全体の年間商品販売額は増加傾向

災害

- ・菊池川・吉田川に囲まれたエリアで豊かな自然資源がある一方で各河川周辺の市街地は浸水想定区域が分布
- ・想定最大規模降雨及び計画規模降雨による浸水想定エリアについては、市街地西部及び下町他、菊池川沿いの市街地に浸水エリアが分布
- ・その他、家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害特別警戒区域が分布

ウォークアブル

- ・豊前街道周辺において、歩きたくなる空間としての道路の修景整備は進んでいるが、歩道等の整備、交通規制が課題（歩行者専用・一方通行など）
- ・まちに開かれた空間として、多様な店舗、滞留・休憩できる公園等が分布しているが空き店舗・空き地が分布
- ・2024年の歩行者交通量、滞在人口は2018年と比較して減少

<まちなかの現況図(現況指標における魅力や課題図)> 補足)マーカーは想定される問題・課題

<人口>

- エリア全体(任意区域)で人口は2020年から2040年にかけて約2300人減少
- ⇒人口減少、高齢化により都市機能や地域のコミュニティ、伝統・文化が維持できなくなる

<土地・建物>

- まちなかエリア周辺での大規模開発や、エリア内の施設の老朽化
- ⇒まちなかへ訪れる機会の減少が想定される
- ⇒空き家、空き店舗の増加が進む

<都市機能・都市施設>

- 都市機能は集積し利便性は高い(徒歩圏内に生活サービスが充足)
- 都市施設はおおむね整備済み
- ⇒都市機能・都市施設の質的充実、維持管理が今後の課題

(豊前街道周辺)

- 統一された歴史的な町並み形成が進む
- 道路修景整備が進むが歩道は未整備、交通規制もない
- 多くの店舗等が立地するが、一部地区では空き家・空き地、青空駐車場等が分布し連続性を失分
- 八千代座、さくら湯、灯籠民芸館等の観光の核となる施設のほか、各種飲食店、宿泊施設等が集積し、多様な区間を創出
- 湯の端公園、中町公園のほか、八千代座周辺、さくら湯周辺に滞留空間が形成

<交通>

- 交通結節点と核となる機能とが離れている、広域交通がない
- ⇒車中心の移動から人中心への空間が必要

<畑中山鹿線沿道>

- 大規模な店舗が続々開業し山鹿地域の買い物の拠点へ
- ⇒ロードサイド型店舗で車移動が中心。中心部のスーパー等撤退で買い物弱者増加の恐れ

(西側市街地)

- 基盤整備が整い、歩道等が整備されているが、店舗の連続性等は低い
- 国道3号に複数の施設が分布するが車利用を想定した施設が多い
- 都市公園は多く分布しているが開放的な空間とは言えない

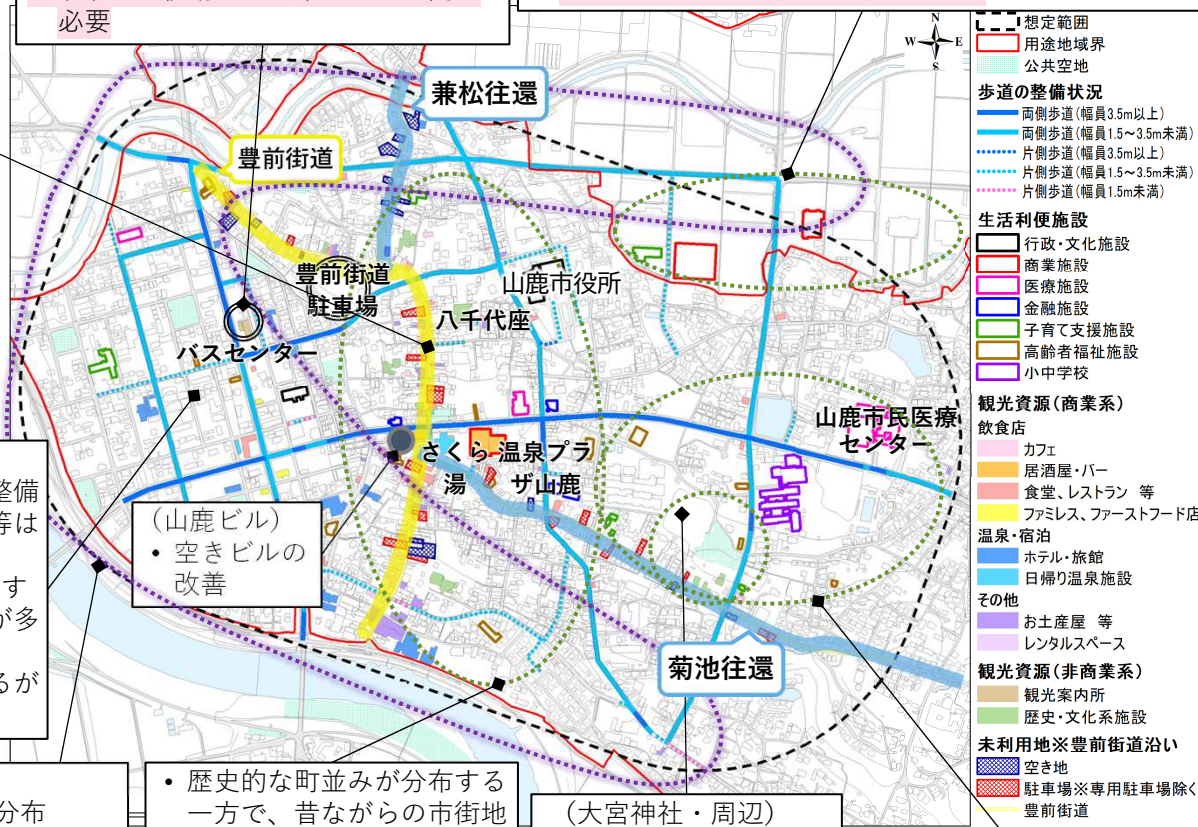
<災害>

- 河川沿いに浸水空間が分布
- 特に国道3号西側市街地では浸水深も高い
- ⇒観光、定住の面から災害に強いまちづくりが必要

- 歴史的な町並みが分布する一方で、昔ながらの市街地で4m未満の道路が多く建替えが困難な箇所も
- ⇒ロードサイド型店舗で車移動が中心

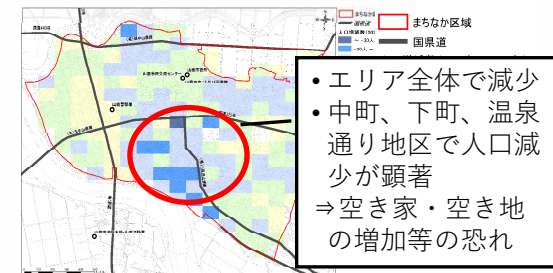
- (大宮神社・周辺)
- 幻想的な光に包まれ、多くの人出で賑わう山鹿灯籠まつりの開催

- 公共公益機能が集積
- 医療センターは広域の医療拠点の役割



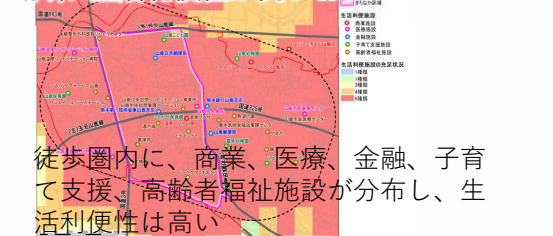
<人口増減図>

寒色:人口減少が大きいエリア

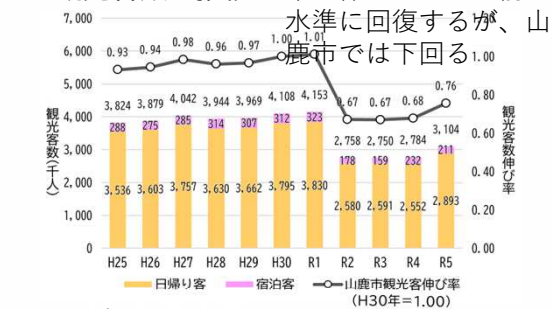


<日常生活サービスの徒歩充足状況>

赤系:生活利便性が高いエリア

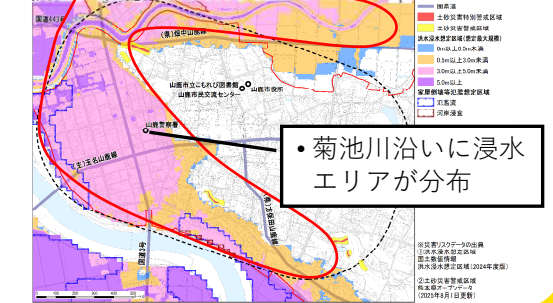


<観光客数の推移> 県全体ではコロナ前の水準に回復するが、山鹿市では下回る



<ハザード分布図>

桃色:浸水3.0m以上のエリア



WEBアンケート調査

(まちなかの魅力/市民)

| | |
|-------------|-----|
| 伝統・歴史がある | 59% |
| 豊前街道がある | 42% |
| 温泉施設が充実 | 39% |
| 飲食店が充実 | 31% |
| 文化施設が充実 | 21% |
| 景観が良い | 19% |
| イベントが多い | 18% |
| 観光施設が充実 | 17% |
| 買い物利便性が良い | 15% |
| 公共施設が充実 | 10% |
| 公園・緑が多い | 9% |
| 居住環境が充実 | 8% |
| 医療・介護施設が充実 | 7% |
| 地域コミュニティが良い | 6% |
| 特になし | 6% |
| 子育て環境・施設が充実 | 6% |
| 交通利便性が良い | 5% |
| 駐車場が多い | 5% |
| 生活コストが低い | 4% |
| 賑わいがある | 4% |
| その他 | 3% |
| 働く場所が充実 | 2% |
| 娯楽施設が充実 | 1% |

(まちなかの観光的魅力/観光客)

| | |
|----------------|-----|
| 古い街並みが残っている | 72% |
| 温泉施設が充実 | 64% |
| 八千代座がある | 59% |
| 山鹿灯籠などの伝統文化がある | 55% |
| 豊前街道が魅力的 | 35% |
| 街歩きができる | 34% |
| お土産・買い物が充実 | 22% |
| 飲食店が充実 | 21% |
| お寺・神社などの歴史がある | 20% |
| 景観が良い | 19% |
| 駐車場が多い | 12% |
| 宿泊施設が充実 | 9% |
| 文化施設が充実 | 9% |
| 公園・緑が多い | 8% |
| イベントが多い | 7% |
| 交通利便性が良い | 6% |
| 観光案内が充実 | 6% |
| その他 | 3% |
| 観光ガイド・ツアーが充実 | 3% |
| 特になし | 1% |
| 体験アクティビティが充実 | 1% |

デプスインタビュー調査



市民から意見の多かったまちなかの魅力

- ・八千代座、大宮神社に代表される歴史・文化的資源
- ・豊前街道の歴史的まちなみ・雰囲気
- ・飲食店・イベントの充実による中心部の賑わい・魅力
- ・山鹿温泉の充実、泉質など



観光客から意見の多かったまちなかの魅力

- ・八千代座、山鹿灯籠に代表される歴史・文化的資源
- ・豊前街道沿いの歴史的まちなみや魅力的な店舗
- ・さくら湯をはじめとした温泉、高い泉質
- ・栗や千代の園などの食文化、飲食、お土産など

ワークショップ



市民・高校生から挙げたまちなかの魅力

- ・八千代座、大宮神社に代表される歴史・文化的資源
- ・豊前街道に代表される歴史的まちなみ・雰囲気
- ・さくら湯の存在、山鹿温泉の充実、泉質が良い
- ・災害に強いまち（古墳が残っている）など

ニーズ調査・ワークショップから見える「山鹿のまちなかの魅力」

歴史文化・まちなみ（豊前街道）・温泉・飲食は共通する魅力です。

WEBアンケート調査

(まちなかの課題／市民)

| | |
|---------------|-----|
| 交通利便性が悪い | 48% |
| 若い人が少ない | 41% |
| 賑わい・活気がない | 39% |
| 買い物利便性が悪い | 36% |
| 駐車場が少ない | 33% |
| 空き家・空き地が多い | 32% |
| 娯楽施設が少ない | 31% |
| 働く場所が少ない | 29% |
| 人材が不足している | 19% |
| 飲食店が少ない | 17% |
| 伝統・歴史を活かせていない | 16% |
| 行く目的がない | 16% |
| 観光施設が少ない | 15% |
| 医療・介護施設が少ない | 15% |
| 公園・緑が少ない | 14% |
| 子育て環境が悪い | 13% |
| イベントが少ない | 12% |
| 公共施設が少ない | 11% |
| 文化施設が少ない | 9% |
| 景観が悪い | 9% |
| 地域コミュニティが良くない | 8% |
| 住宅が少ない | 5% |
| 生活コストが高い | 5% |

(まちなかの観光的課題／観光客)

| | |
|---------------------|-----|
| 情報発信・PRが不足 | 19% |
| 交通利便性が悪い | 18% |
| お土産が少ない | 17% |
| 飲食店が少ない | 15% |
| 街歩きのコースが少ない | 12% |
| 駐車場が少ない | 11% |
| 八千代座を活かせていない | 11% |
| 空き家・空き地が多い | 10% |
| 街並み・景観を活かせていない | 10% |
| 観光案内が足りない | 8% |
| 買い物利便性が悪い | 8% |
| イベントが少ない | 8% |
| 山鹿灯籠などの伝統文化を活かせていない | 7% |
| 観光施設が少ない | 6% |
| 宿泊施設が少ない | 6% |
| 体験アクティビティが少ない | 5% |
| 観光ガイド・ツアーが少ない | 5% |
| 豊前街道が楽しくない | 4% |
| 温泉施設が少ない | 2% |
| 公園・緑が少ない | 1% |
| 景観が悪い | 1% |

デプスインタビュー調査



市民から意見の多かったまちなかの課題

- ・交通利便性が悪い（駐車場の不足、公共交通の不便さ）
- ・若い人が少ない（働く場所、娯楽施設の不足）
- ・子育て環境が悪い（駐車場、子供が遊ぶ公園など）
- ・賑わい・活気の不足（空き家・空き店舗など）



観光客から意見の多かったまちなかの課題

- ・情報発信・PRが不足（他の観光地との差別化）
- ・豊前街道の魅力の不足（空き家・空き地の活用）
- ・観光コンテンツの不足（体験、お土産、温泉など）
- ・宿泊施設の多様化、駐車場の不足など

ワークショップ



市民・高校生から挙げたまちなかの課題

- ・交通利便性が悪い（バスの本数・ルートなど）
- ・若者向けの施設の不足（飲食、休憩できる施設など）
- ・若い人をはじめとした人材不足、まち全体の高齢化
- ・快適に暮らすまちづくり、子育て環境の充実など

ニーズ調査・ワークショップから見える「山鹿のまちなかの課題」

市民は交通利便性・若年層の居場所・住環境・賑わいの改善、観光客は情報発信やコンテンツの拡充を課題に挙げています。

WEBアンケート調査

（まちなかの展望／市民）

| | | |
|-----|----------------|-----|
| 1位 | 交通利便性を向上させる | 55% |
| 2位 | 空き家・空き地を活用する | 43% |
| 3位 | 若い人の定住を増やす | 39% |
| 4位 | 生活利便性を向上させる | 39% |
| 5位 | 観光的魅力を向上させる | 38% |
| 6位 | 買い物利便性を向上させる | 38% |
| 7位 | 賑わい・活気を取り戻す | 37% |
| 8位 | 働く環境を向上させる | 35% |
| 9位 | 豊前街道を活性化 | 34% |
| 10位 | 駐車場を整備する | 33% |
| 11位 | まちなかの魅力を発信する | 31% |
| 12位 | 飲食店を充実させる | 30% |
| 13位 | 子育て環境を向上させる | 29% |
| 14位 | イベントを増やす | 27% |
| 15位 | 景観・街並みを良くする | 26% |
| 16位 | 伝統・歴史を活用する | 25% |
| 17位 | 医療・介護の環境を向上させる | 19% |
| 18位 | 文化施設を充実させる | 18% |
| 19位 | 公園・緑を増やす | 15% |
| 20位 | 公共施設を増やす | 14% |

（まちなかの展望／観光客）

| | | |
|-----|----------------|-----|
| 1位 | 八千代座をもっと活用する | 34% |
| 2位 | 豊前街道を魅力的にする | 31% |
| 3位 | お土産を充実させる | 29% |
| 4位 | テイクアウト・食べ歩き | 27% |
| 5位 | 山鹿灯籠などの伝統文化の活用 | 27% |
| 6位 | 飲食店を充実させる | 26% |
| 7位 | 街歩きのコースを整備する | 26% |
| 8位 | 交通利便性を向上させる | 22% |
| 9位 | まちなかの魅力を発信する | 19% |
| 10位 | イベントを増やす | 17% |
| 11位 | 温泉施設を充実させる | 17% |
| 12位 | 駐車場を整備する | 16% |
| 13位 | 観光案内を強化する | 15% |
| 14位 | 空き家・空き地を活用する | 15% |
| 15位 | 街並み・景観の活用・整備 | 14% |
| 16位 | 買い物利便性を向上させる | 14% |
| 17位 | 地域の歴史をもっと活用する | 12% |
| 18位 | 宿泊施設を充実させる | 12% |
| 19位 | 体験アクティビティの充実 | 10% |
| 20位 | 観光ツアーを充実させる | 7% |

デプスインタビュー調査



市民から意見の多かったまちなかの展望

- ・若者の活躍・人材の確保（働く場所、定住促進など）
- ・空き家・空き店舗の活用、豊前街道の活性化
- ・子育て環境の改善（公園緑地、イベントなど）
- ・まちづくりの土壌づくり、交通利便性など



観光客から意見の多かったまちなかの展望

- ・積極的な情報発信・プロモーション
- ・豊前街道の活性化・魅力化、八千代座の活用集客
- ・他地域に負けないコンテンツ・ストーリーの構築
- ・観光コンテンツ充実（温泉、宿泊、お土産）など

ワークショップ



市民・高校生から挙げられたまちなかの展望

- ・積極的な情報発信（SNS、動画の活用）
- ・空き店舗や既存施設を活用した賑わいづくり
- ・新たな交通手段の導入、交通利便性の向上
- ・歴史文化の活用・景観整備、住環境の改善など

ニーズ調査・ワークショップから見える「山鹿のまちなかの将来に必要なこと」

市民は課題と同じ交通や人材・賑わいに関する展望が多く挙げられ、観光客は豊前街道を中心とした観光魅力アップ・PRを求めています。



ワークショップ等からみる方向性と解決すべき課題

当該地区の方向性(市民が描くビジョン等)

～伝統・文化×観光～

- 伝統的な町並みが残る活気のあるまち
- 伝統や温泉を活かして賑わうまち
- 古い建物と新しい建物（古いものと新しいもの）が調和し、若者、高齢者、観光客に魅力が伝わるまち

～観光 × 定住 × α～

- 市民が憩い、訪れる人がそぞろ歩きするまち
- 観光と暮らしが調和するまち（暮らしの延長上に観光がある）
- 食べ歩きができる、たくさんの人が気軽に訪れられるまち
- 美容、ウェルネスのまち（温泉、食、美容など）

～定住 × 子ども・人～

- 子ども・子育て世代が遊ぶ・出かけるまち
- 若い世代からも好かれるまち
- 若い人が帰ってきたくなる、活動できるまち
- 高齢者の方も安心して生活し続けられるまち
- 自慢できるまち・誇れるまち（シビックプライド）
- 美しい自然、魅力ある歴史文化の中で、多様な人が交流するまち



• まちの活力、伝統文化を継承するためにも住んでもらうことが大事

市民が描くビジョン等

(全体)

- 宿泊してもらうことが必要
- イベントを除いて高校生等若者が訪れる機会が少ない（平日は学校へ送迎、休日は熊本市への買い物等が主）

<新たな賑わい>

- 美容・湯治・水をはじめ「温泉」と連携した新たな戦略（アンチエイジングなど）

<まち歩き・回遊性の向上>

- 食べ歩きできる空間の整備
- 滞留できる空間整備
- 大宮神社など（歴史・文化）へのルートを活かせる
- どのように歩いてもらうかが課題
- 大宮神社など魅力的な資源があるものの知られていない（ルートを作って知ってもらう）

補足)マーカーは課題

<店舗・都市機能>

- 娯楽施設ではない、賑わいのある施設
- 学習スペースの整備
- 美術館の誘致（※直島の瀬戸内美術館）
- シルバーの人が集まる場所の創出
- 子どもが行きたくなる施設（駄菓子屋など）
- 子どもが気軽に遊べる場所
- 居酒屋などが多く若者向けの施設が少ない
- 魅力的な店舗はあるが情報発信不足（知らない）

<空き家・空き店舗の活用>

- 高齢者のコミュニケーションスポットの整備
- 地域の人が集まる空間を整備（福祉、賑わい他）

<その他交通>

- マイクロモビリティでの回遊

<駐車場>

- フリンジ駐車場の整備（大きい駐車場を周辺部に配置し、まちなかは歩く空間）
- 駐車料金の割引
- 観光バスを止めるところがない

<公共交通の利便性向上>

- 生活利便性や観光地めぐりに向けた公共交通の充実、新たな交通手段の導入
- JR・バス・タクシーの連携（一日乗車券など）
- あいのりタクシー増便で高齢者のアクセス性向上
- 電車がいない、交通が不便（本数が少ない）、バス料金が高い

<景観>

- 木造に見える建物の整備（※景観）

<自然環境>

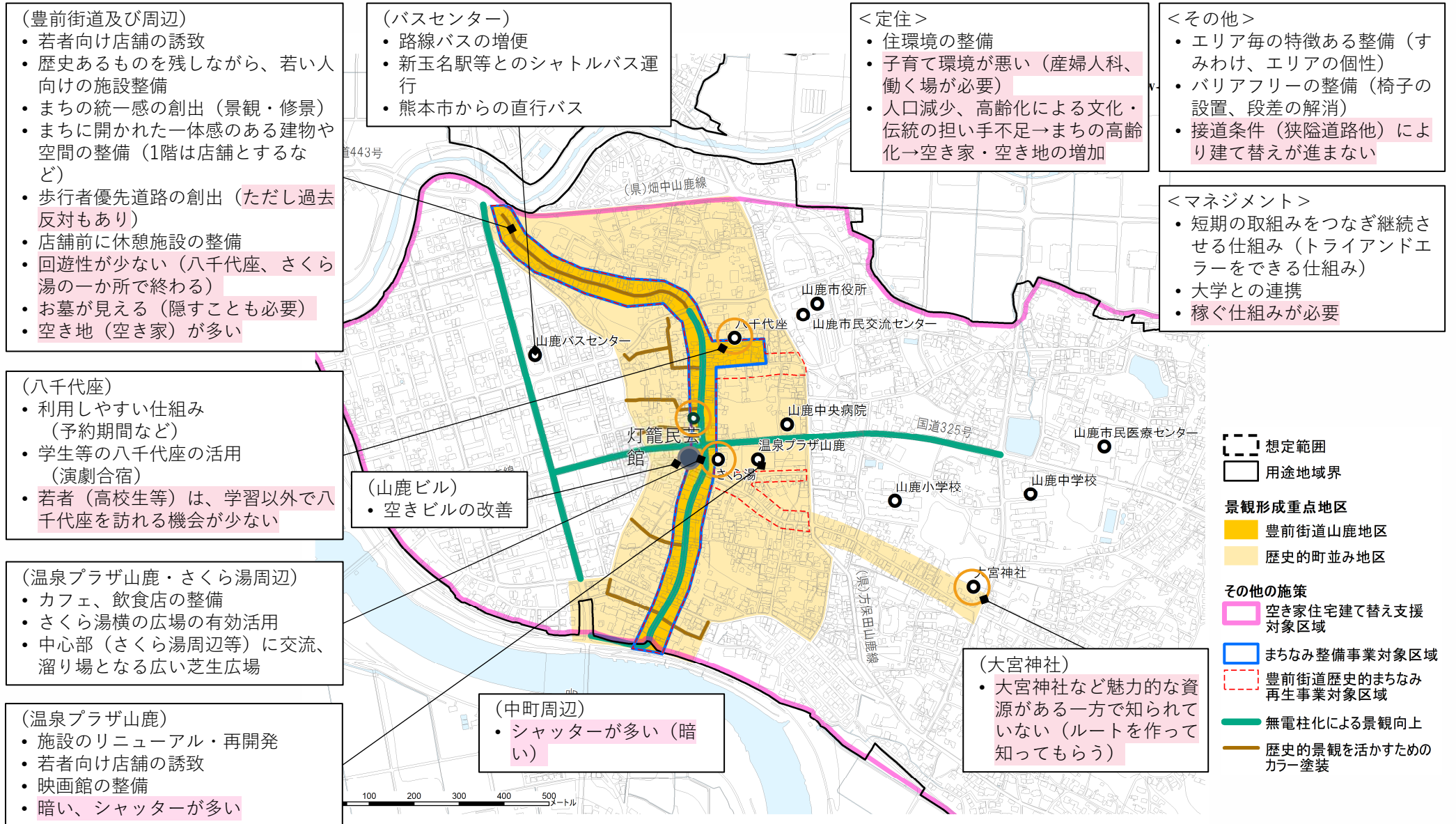
- 美しい自然環境の保全
- まちなかの緑の整備

<情報発信>

- 山鹿の歴史文化を身近に感じられるPR・情報発信
- インスタ・TikTok（SNS活用）など若者の目に留まる情報発信
- 歴史情報の発信
- PR不足



ワークショップ等からみる方向性と解決すべき課題



ヒトモノカネが集まらない“負の連鎖”をいかに止めるか

かつてはヒトモノカネが集まる宿場町として栄えた山鹿のまちなか。その繁栄の歴史や文化、まちなみは現在にも息づいているものの、活気は衰退しています。ニーズ調査やワークショップにおける課題・展望に多く挙げられた交通便利性や人材、賑わい、観光的魅力、生活利便性、住環境に関することは、ヒトモノカネが集まらなくなった負のスパイラルが影響していると考えられます。この負の連鎖を止め、山鹿市の核として再び求心力を持つことが活性化の条件に求められています。

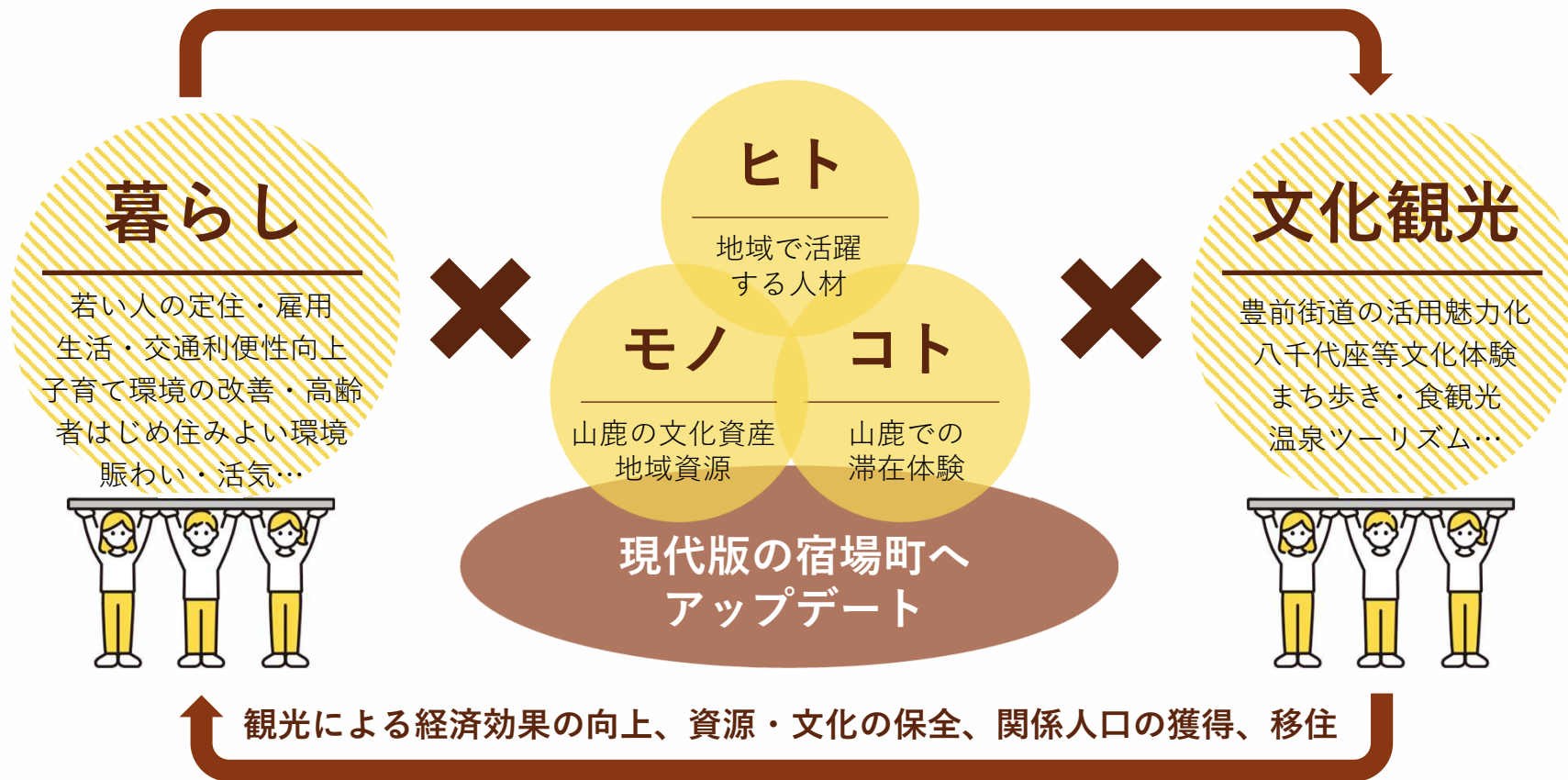


将来ビジョン

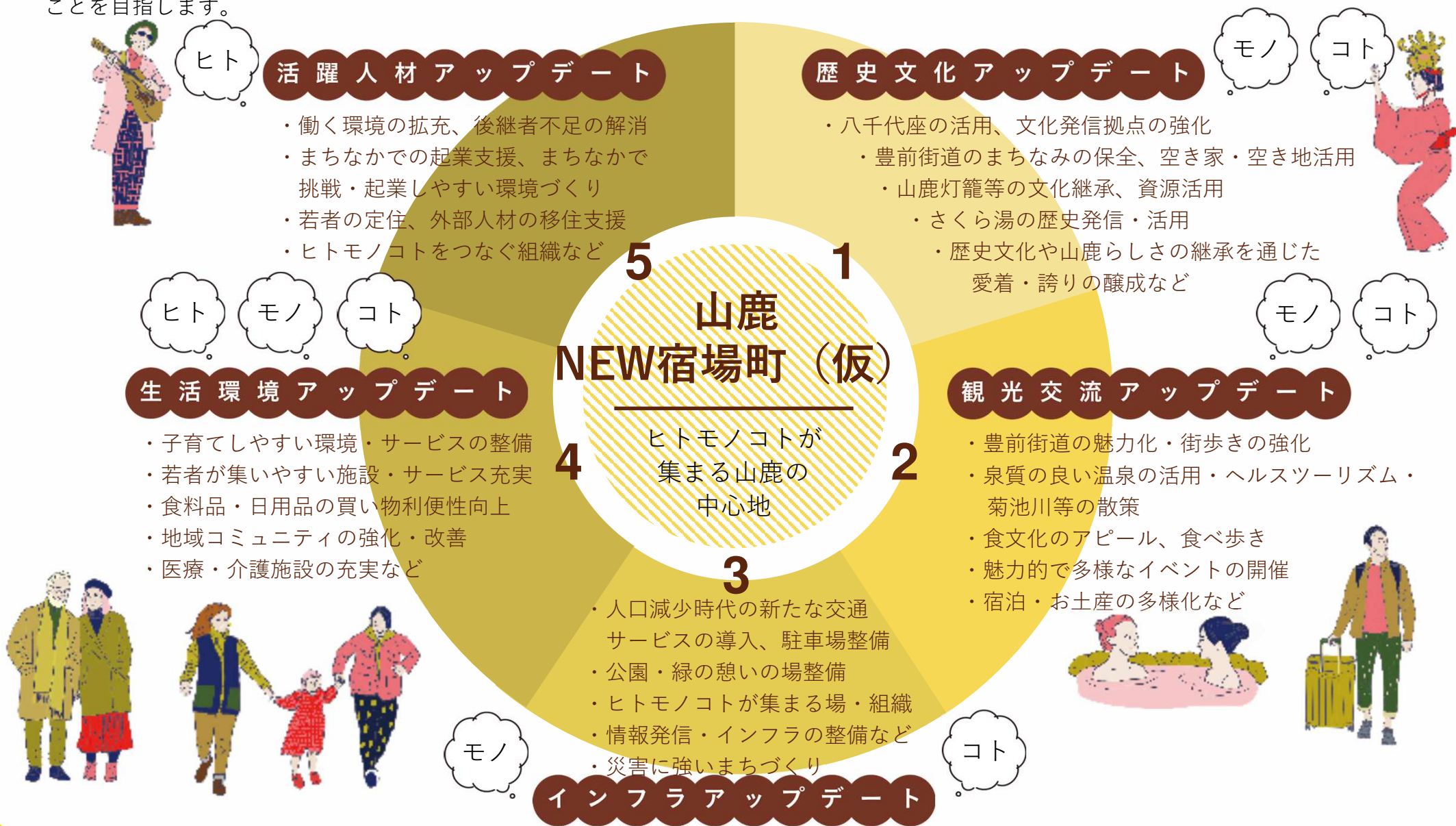
山鹿・NEW宿場町 (仮)

20年後においても魅力的で、持続可能な山鹿のまちなかを目指すため、現代及び将来に向けてヒト（人材）、モノ（資源）、コト（体験）が集まる「現代版宿場町へのアップデート」を目指します。暮らしと観光が両輪となり、人や経済の流れを生み出し、培ってきたまちなみや文化の土台の上に新たな価値をつくり上げていきます。また、これまでの自動車中心から人中心の空間づくりを進め、観光地として回遊性が高く、暮らしの場として健幸都市づくりにつながるなど、変化の先に、住み続ける定住を実現します。

文化・商い・観光を支える人材、起業・新たな商い、まちなかの魅力化



ヒトモノコトが集まる将来ビジョン「山鹿NEW宿場町」を達成するために、5つのコンセプトを設定しました。山鹿市が培った地域の財産「歴史文化」、経済効果・消費を創出し新たな人流を呼び込む「観光交流」、人の流れや滞在の基盤「インフラ」、住民が長く快適に暮らす「生活環境」、そして山鹿のまちなかで働き、地域を支える「活躍人材」それぞれが価値を向上し、まちなかに新たな好循環をつくり出すことを目指します。



山鹿 NEW宿場町

ヒトモノコトが
集まる山鹿の
中心地

山鹿市及び中心地の交通結節
点として、新たな交通でまち
なか及び周辺へのアクセシビ
リティが高まっている

中心拠点となるエリアで、人の滞留、回遊の起点として
新しい機能の誘導が進み、若者、子ども、観光客など
様々な人で賑わっている

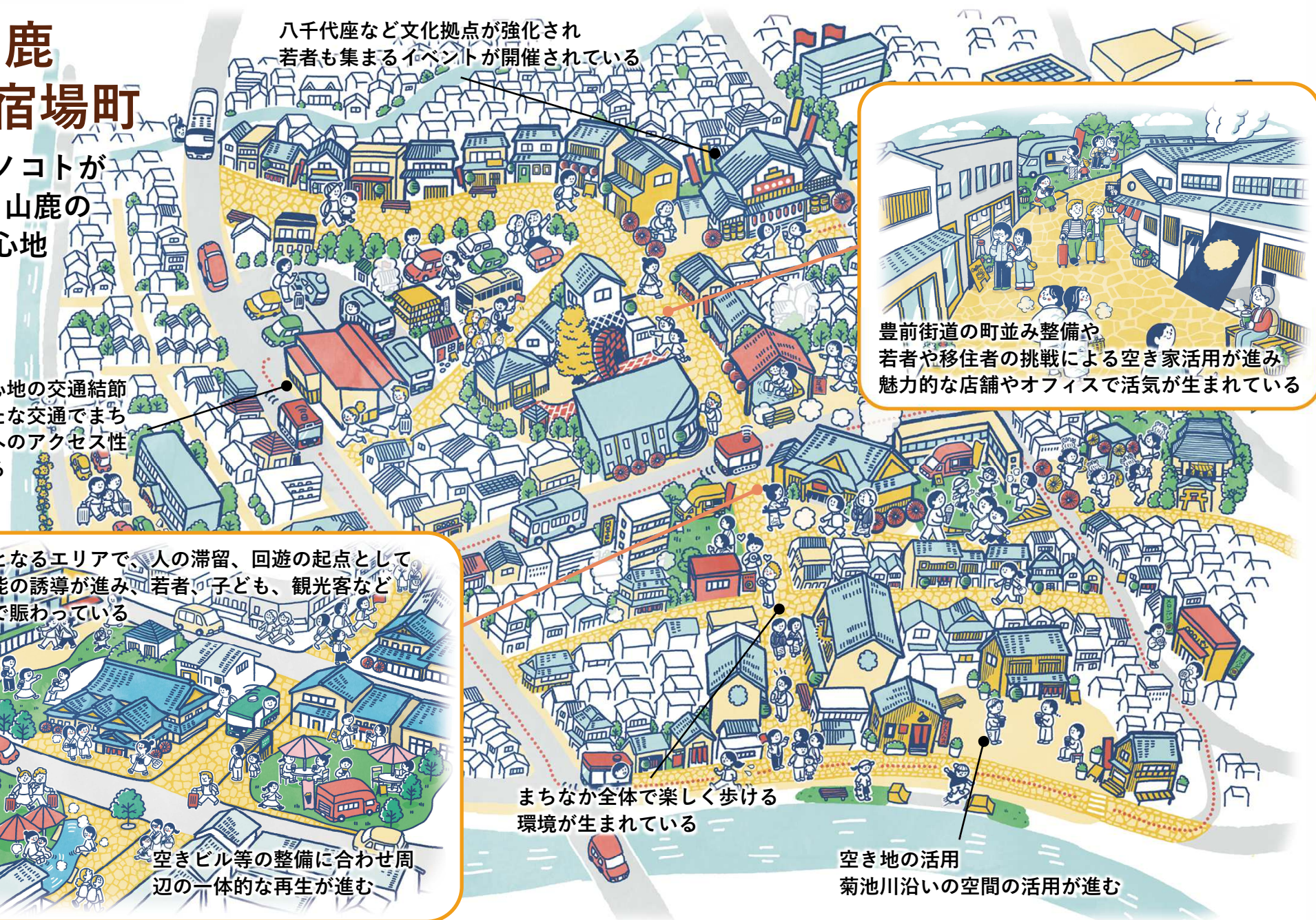
空きビル等の整備に合わせ周
辺の一体的な再生が進む

八千代座など文化拠点が強化され
若者も集まるイベントが開催されている

豊前街道の町並み整備や
若者や移住者の挑戦による空き家活用が進み
魅力的な店舗やオフィスで活気が生まれている

まちなか全体で楽しく歩ける
環境が生まれている

空き地の活用
菊池川沿いの空間の活用が進む





(資料：AIによる画像生成)



(資料：AIによる画像生成)



(資料：AIによる画像生成)

山鹿市のまちなかが持つ歴史や文化そして宿場町として栄えたポテンシャルを最大限に生かし、
みんながワクワクする魅力的で持続可能なまちなかを目指します。



(資料：AIによる画像生成)



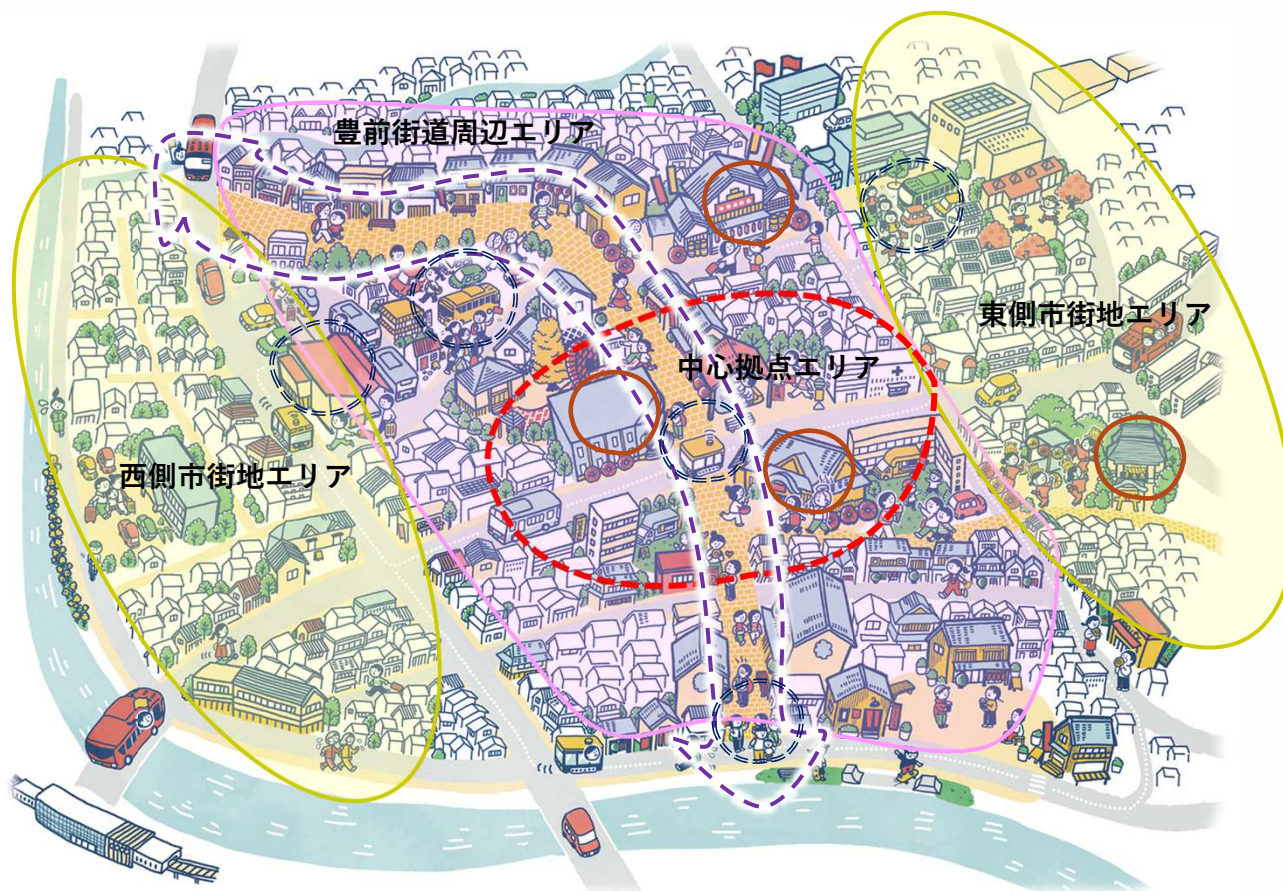
(資料：AIによる画像生成)



(資料：AIによる画像生成)

まちなかの将来像（ビジョン）の実現に向けて、特徴あるエリアを設け、それぞれの役割とポテンシャルを生かしたまちづくりを進めます。エリアごとの未来像や空間づくりのあり方を示すことで、計画の実行性を高めるとともに、土地利用の規制・誘導、道路等の都市基盤整備など具体的な空間形成につなげます。

補足) エリアの区分やイメージは、原案の段階のものであり、令和8年度の実現化方策の検討、それに伴う地域や民間事業者との調整・連携を踏まえ更新します。



中心拠点エリア

住む人・訪れる人が集まり、まちなかへ様々なヒトモノコトを誘う中心拠点エリア

豊前街道周辺エリア

まちなかを訪れる人が、昼も夜もそぞろ歩きする多様な楽しみが味わえるエリア

西側市街地エリア



生活サービス施設と滞在空間が共生する安全・安心な定住エリア

東側市街地エリア

様々な公共サービスが集積し、新旧市街地が融合する定住エリア

エリア全体

- 各エリア、核拠点や核となる施設を結ぶ交通環境
- 官民連携による稼ぐ仕組み・体制の創出
- 山鹿まちなかの魅力を高め発信する取組み
- まちなか居住、住み続けられるまちの形成に向けた安心・安全性の確保（災害リスクの回避や低減）

 歴史文化核／山鹿市文化観光推進計画に位置付けられた拠点施設
 交通結節点／バスセンター、集約駐車場など交通結節点



中心拠点エリア

住む人・訪れる人が集まり、まちなかへ
様々なヒトモノコトを誘う中心拠点エリア

- ビジョン実現（まちなかのアップデート）に向け、様々なヒトモノコトが集まり、その賑わいを周辺に波及する先導的に取組むエリア
- 空きビルの再整備、温泉プラザ山鹿の改善など一体的な賑わい・滞在空間の創出
- まちなかの滞留拠点・賑わい発信拠点として、情報発信、イベントの実施やそれを支える仕組みづくり



<参考イメージ>

開発を通じた周辺一帯の再生・再編

- 空きビル等の再整備による周辺の一体的な整備
- 中心拠点として、核となる施設の整備（お土産、歴史と現在の共存する施設）
- 人の滞留、回遊の起点としての広場空間の創出



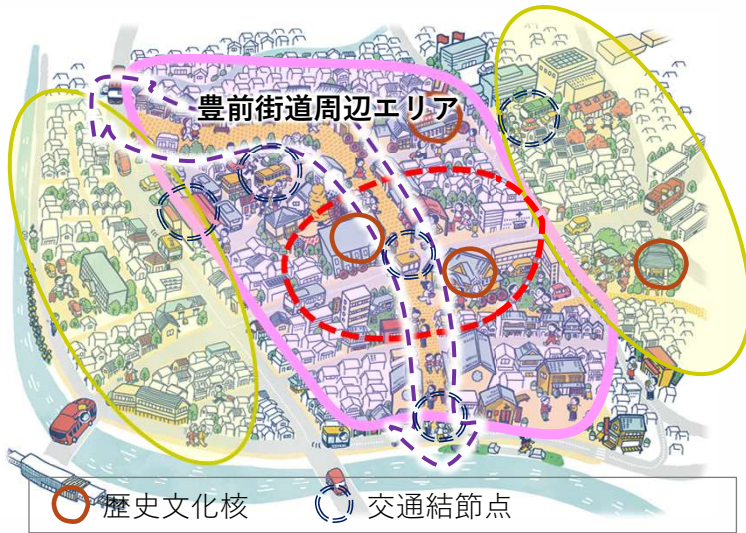
(資料：AIによる画像生成)

夜間景観、ナイトタイムエコノミーなど、新たな魅力・稼ぐ仕組みの創出

- フットライト、明かりの連続性、まちの演出
- 夜市、夜の街歩きツアー、まちなかバルなどのイベント開催



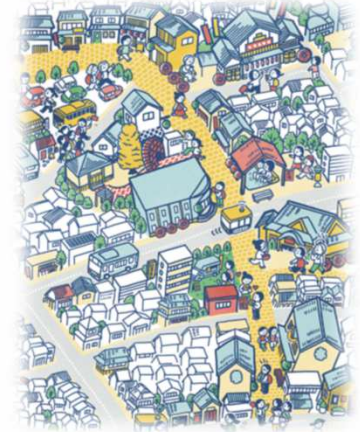
(資料：AIによる画像生成)



豊前街道周辺エリア

まちなかを訪れる人が、昼も夜もそぞろ歩きする多様な楽しみが味わえるエリア

- 人中心の空間として自然と歩きたくなる、歩いて楽しむ空間や活動づくり
- 「まち歩きツアー」「食べ歩き」「ナイトタイムエコノミー」「歩行者優先道路(イベント時など)」など歩くしかけづくり
- まちなみ整備、まちなみ再生事業等の継続的な実施による歴史的まちなみの創出、空き家・空き店舗の活用
- 駐車場の適正配置、ベンチの配置など空間形成



<参考イメージ>

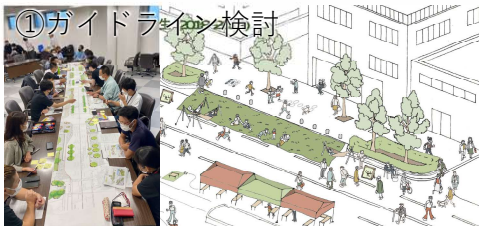
豊前街道など、人中心の空間創出に向けた交通規制、滞在・滞留したくなる仕掛け

- 空き地を活用した滞留空間の整備
 - 芝生広場
 - キッチンカー
- 官民連携による公共空間の活用
 - 街道沿いのベンチの設置

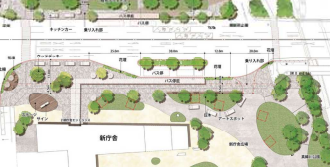


(湯の端公園での社会実験のイメージ)

(資料：AIによる画像生成)



③社会実験を踏まえた道路構造等見直し



(資料：まちみち会議資料／宇部市の取組み事例)

- ①ビジョン等に基づく方向性を共有し、
- ②ビジョン実現に向けた社会実験を実施
- ③結果をフィードバックし、空間の見直しへ(土地利用、道路空間、景観など)

八千代座等の文化観光拠点について、新たな活用による歴史と現在の共存

- 八千代座のプロジェクトンマッピング、デジタルサイネージ等による新たな文化資源の活用や情報発信



(資料：AIによる画像生成)



西側市街地エリア

生活サービス施設と滞在空間が共生する安全・安心な定住エリア

- 生活サービス、基盤が整うまちなか居住エリア
- 浸水想定等の災害リスクの安全性を高め、住みやすい・住み続けられる環境の創出
- 国道及び県道沿いの生活サービス、菊池川沿いの自然景観を生かした宿泊施設などの維持と豊前街道エリアを結ぶ環境の創出



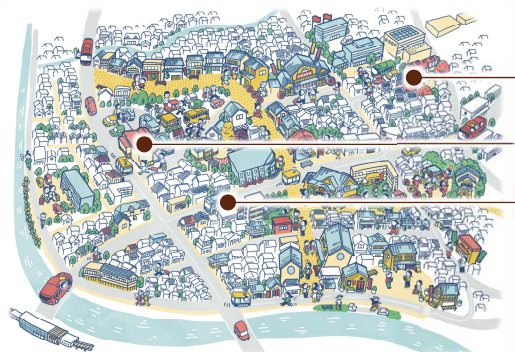
東側市街地エリア

様々な公共サービスが集積し、新旧市街地が融合する定住エリア

- 公共サービスが集積し、若い人をはじめ、誰もが住みよい居住エリア
- 歴史文化資源の核となる大宮神社ほか、昔ながらの市街地も広がっており、新旧市街地が融合する住みよい環境の創出



<参考イメージ>



山鹿バスセンター・集約駐車場等での観光と連携した自動運転サービス



(資料：AIによる画像生成)



(資料：RoAD to the L4ホームページより)



- バスセンター、集約駐車場からの自動運転サービス
- 運行ルート沿いでの「自動運転専用スペース」「ビジョン（歴史文化等）」に合わせた停留所の配置
- 歩かせたい（魅せたい）ルートとの連携
- 集約駐車場は、まちの周辺部に配置し、まちなかの歩きやすい空間を創出

山鹿市のまちなかグランドデザインは策定することが目的ではなく、それからがまちづくりのスタートです。老若男女山鹿のことをなんとかしたい！という思いを持つ方であれば誰でもチャレンジができて、その挑戦を行政・民間で応援する土壌をつくりあげていきます。元気な地域には元気な市民がいる。元気な市民のチャレンジの積み重ねの先に、「ヒトモノコトが集まる山鹿の中心地」が実現できると信じています。

まちなかを盛り上げる
まちづくりチャレンジ



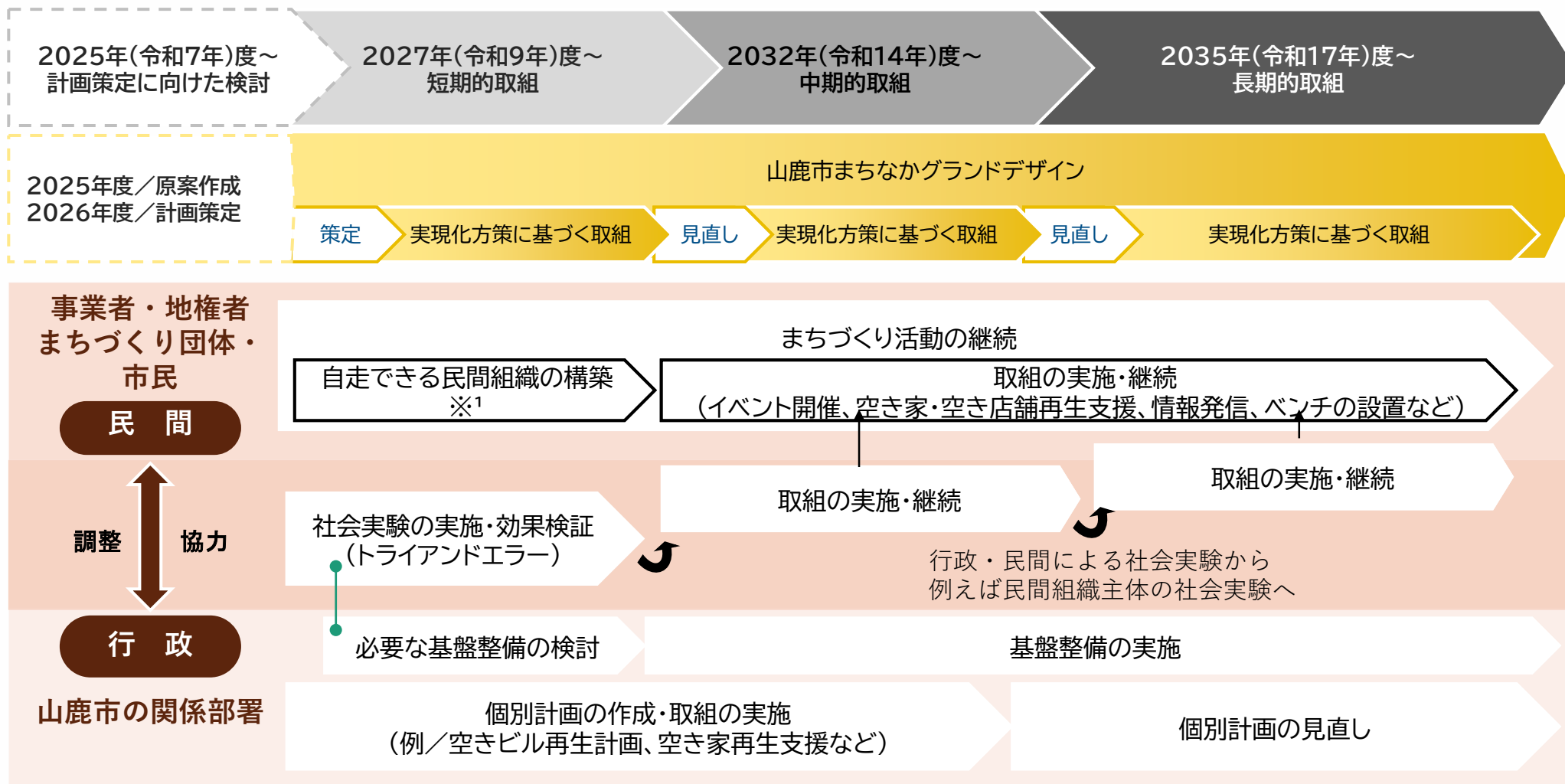
※チャレンジのアイデアの一例



令和7年度に作成した「山鹿市まちなかグランドデザイン（原案）」をもとに、令和8年度には計画の実現に向けた民間、行政の連携による様々な取組み「実現化方策」の検討を進めます。

「実現化方策」については、短期（5年間）、中期（10年間）、長期（20年間）の期間において、「何のために」「いつ」「誰が」「何を」「どのように行うのか」を定めたロードマップを作成します。なお、作成したロードマップについて、各段階で方策及び計画の評価、改善を行い、計画の実行性を高めていきます。

（ロードマップのイメージ）



※¹ 自走できる民間組織/グランドデザインの進捗状況、効果検証を行政と協働で行う組織。まちづくり会社など、任意のまちづくり団体であり社会実験等の運営主体となる組織形成を目指す

山鹿市まちなかグランドデザイン（原案）

発行 山鹿市建設部都市整備課

お問い合わせ 山鹿市建設部都市整備課
合わせ先 〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿987-3
電話：0968-43-1591（課代表）
Eメール：toshikei@city.yamaga.kumamoto.jp（課代表）

「山鹿市まちなかグランドデザイン」は、令和7年度の骨子検討を踏まえ、令和8年度に計画のとりまとめを進めます。このため、ビジョン等については、素案であり今後の検討を踏まえ、更新を図ります。

この事業は、熊本県の「令和7年度くまもと未来づくりスタートアップ補助金」を受けて実施しています